

「パラリンピアン」の講演を共生社会理解につなげるために」

#パラリンピアン講演と『I'mPOSSIBLE』日本版 #同じ講演をきいて別のテーマで授業
#様々な人の立場を考える #自分たちにできることは何だろう

学校名	札幌市立澄川南小学校
実施教科	総合的な学習の時間
授業担当者	各クラス担任
授業時間	45分×3回
実施対象	3年生(2クラス68名)、4年生(2クラス63名)、5年生(2クラス59名)、6年生(2クラス68名)
授業のねらい	<p>【3年生】 パラリンピックの概要を知りその工夫を学んだ上で、公平なルール作りに必要な考え方を学ぶ。</p> <p>【4年生】 パラリンピアン、強い意志を学び、自分自身が勇気や強い意志をもって取り組みたいことを考える。</p> <p>【5年生】 パラリンピックの概要を学び、パラリンピック大会を準備する際に行われた、様々な人がスポーツを楽しむための工夫とはどのようなものか、またそれはどのように考えられたのかを考える。</p> <p>【6年生】 パラリンピック大会を準備する際にどのような工夫が行われたのか、また、それがどのように考えられたのかを学び、講演を振り返りながら、「共生社会」実現のために自分たちにできることについて考える。</p>
使用ユニット	<p>【3年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-1 パラリンピックってなんだろう？ ・1-3 公平について考えてみよう！ <p>【4年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピアン、ストーリーから学ぼう <p>【5年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-1 パラリンピックってなんだろう ・東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！ <p>【6年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピアン(河合純一)の講演の前後で1時限ずつ『I'mPOSSIBLE』日本版による授業を実施した。 ・学年ごとに授業のねらいを決め、事前授業⇒講演⇒事後授業が一つの流れになるように意識して授業を行った。
生徒のコメント (原文のまま)	<p>(「共生社会とは、素材をすりつぶして均一化したミックスジュースのようなものではなく、一つ一つの素材の味が生かせるフルーツポンチのようなものだ」という河合の講演を受けて)「ミックスジュースはフルーツのそざいをいかせないけれど、フルーツポンチはフルーツのそざいをそのままいかせて、人間の「公平」と同じだと思いました。(3年生)</p>

	<p>「障がいのあるないに関わらず、相手の気持ちを考えて接していきたい。その人にとって必要なことかどうかを直接聞いたり、自分で考えたりできるようになりたい。」(5年生)</p> <p>「どんな人でも過ごしやすいように、自分の普段の生活の中でも声をかけたり、ゆずったり、工夫をしたいなと思いました。」(5年生)</p> <p>「パラリンピック大会の準備を知ることを通して、自分の夢を叶えるためにあきらめないで前を見続けることの大切さは誰もがもつ権利であること、楽しいことだけをやるのではなく、誰もが住みよい、生活しやすいについて考えていかなきゃいけないことを学んだ。」(6年生)</p>
先生コメント	<p>「3年道德の授業の際、児童から「ミックスジュースでなくて、フルーツポンチだって河合さんがお話されていたし、一人一人の個性を大事にして助け合うことが大切だと思う。」という発言が出てきた。(中略)スポーツを通して得られるのは勝利だけでなく、平和や公平、挑戦、そして共生、人権といった様々な視点で総合的に学びを深めることができた。」(3年生担任)</p> <p>「障がいの有無に関わらず、誰もが得意なこと、苦手なこともあれば、大切に感じる、必要に感じることも違うため、お互いに相手の立場や気持ちを想像しながら過ごしていくことの大切さに気づくよい機会となった。また、パラリンピック選手の姿から誰もが夢をもつことの大切さを知り、選手の挑戦する姿から子どもたち自身の夢、挑戦にも繋げることができた。」(5年生担任)</p> <p>パラリンピック大会を準備するためにどのような工夫が行われていたかを学び、そして河合さんの講演を通して、今まで意識していなかったことをより身近に感じることができ、児童は「様々な人の立場、気持ちを考え、人を思いやる気持ち」「健常者の視線から差別につながるような、配慮の欠けたことになっていないか」、「共生社会実現のために自分たちにできることは何か」といった考えを深めることができた。(小6担任)</p>
その他	<p>(事務局より)今回4年生は、授業時間の余裕がない中、講演を『I'mPOSSIBLE』日本版の学習につなげたいということで、パラリンピックの価値(「勇気」「強い意志」を学習するための15分教材「パラリンピアンストーリーから学ぼう」を使った授業を行いました。直接人権に関する授業ではありませんが、参考まで児童、教師の声を共有します。</p> <p>「私はバトンをやっている、大好きだけど、たくさんけがをしたり大会で金賞や買ったりできなかったときもあったけど、やっぱり2歳からずっと続けているし、バトンがなにより大好きだから、続けてこれたんだと思います。」(4年生児童)</p> <p>「日本パラリンピック協会委員長の河合純一さんが来校され、お話を聞く機会がありました。それに先駆けて、パラリンピックとは何か、また、車いすバスケットボール選手の香西選手の歩みや活躍について動画を通して学習しました。子どもたちからは、実績に対して「すごい！」という言葉がたくさん出てきました。「何がすごいということかな。」と更に聴いてみると、「辛いことも努力で乗り越えてきたからすごい!」「あきらめない心がすごいのだと思う。」と勇気と強い意志をもって物事に挑戦する素晴らしさを感じていました。」(4年生教師)</p>

